

第 710回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

B S Nテレビ 戦後 80 年特別番組

「新聞記者・小柳胖の戦争 一売国奴と呼ばれて」

令和 7 年 9 月 18 日

BSn新潟放送

第 710 回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 令和 7 年 9 月 18 日（木）午前 11：00～

2. 開催場所 B S N新潟放送 6 F 会議室

3. 委員の出席

○ 委員側出席者（敬称略・順不同）

委員長	馬 場 省 吾	委 員	高 橋 信
委 員	石 坂 智恵美	委 員	大 橋 未来子
委 員	太 田 勇 二		

○ 審議番組事前レポート提出者

副委員長	佐 藤 元	委 員	渡 邊 信 子
委 員	馬 場 幸 夫	委 員	三井田 由 香

○ 放送事業者側出席者

社 長	島 田 好 久		
取 締 役	小 湊 潤		（編成業務局担当役員）
取 締 役	島 田 譲		（報道制作局担当役員）

<説明員> 吉 井 一 善 （報道制作局報道制作部長）

事務局長	間 瀬 学		（編成業務局長）
事 務 局	品 田 泰		（編成業務局テレビ編成部部長）

4. 議 題

1 報告事項 令和 7 年 10 月の番組について（各担当）

2 審議番組 テレビ番組 戦後 80 年特別番組
「新聞記者・小柳胖の戦争 ―売国奴と呼ばれて―」
（放送日時：令和 7 年 8 月 15（金）10:25 ～ 11:20）

5. 議事の概要

島田社長の挨拶、各担当からの10月度番組報告に続いて、テレビ番組 後80年特別番組「新聞記者・小柳胖の戦争 一売国奴と呼ばれて―」(令和7年8月15放送)についての審議が行われた。1

～番組審議委員の主な意見～

- アメリカ国立公文書館の尋問調書など緻密な取材に基づいており、番組に深みと説得力があった。
- 戦争の悲惨さや理不尽さ、そして主人公・小柳胖氏のジャーナリストとしての信念が強く伝わってきた。
- 番組全体の構成やテンポが良く、最後まで興味深く視聴することができた。
- 柄本明氏のナレーションが番組に重厚感と深みを与え、高く評価された。
- 捕虜の尋問やお楽しみ会の様子など、教科書では見られない貴重な情報が印象的だった。
- メディアがプロパガンダに利用された歴史的事実を通じて、現代におけるメディアリテラシーの重要性を深く考えさせられた。
- 戦争を知らない若い世代にも見やすく、情報リテラシー教育の教材としても活用されるべき完成度の高いドキュメンタリーだった。
- 小柳氏の戦後のジャーナリストとしての活動、特に田中角栄元首相と対峙したエピソードなどを、より深く掘り下げてほしかった。
- 番組内で使用された紙芝居が、当時のものか今回新たに作成されたものか、説明がほしかった。
- 重要な資料である尋問調書が、なぜ今になって発見されたのか。その経緯についての説明があればより理解が深まったのではないかと。

○ 作中の「硫黄島」の呼称について、「いおうとう」と「いおうじま」の読み方が混在していた点が気になったが、敢えてなのだろうから理由を教えて欲しい。

～新潟放送 報道制作部 吉井一善より～

ドキュメンタリー番組の制作を後押しするような温かいご意見をいただきありがとうございました。

硫黄島で捕虜になり、ハワイで宣伝ビラを制作した主人公の波乱万丈な戦争体験と情報統制によって報道の自由を失った主人公がどうジャーナリズムを考えていたのかを知りたいと思ったのが番組制作のきっかけです。

俳優の柄本明さんのナレーションが良かったと多くの方からご感想をいただきました。幸運にも見つかった尋問調書とともにこの番組には欠かせない大きな要素でした。主人公の戦後のジャーナリズム観をもっと知りたかったというご意見を頂戴しましたが、番組制作中に課題となったところでもありました。

頂いたご意見を参考に、心に響く番組を制作できるよう励みたいと思います。

【文責：番組審議会事務局】